

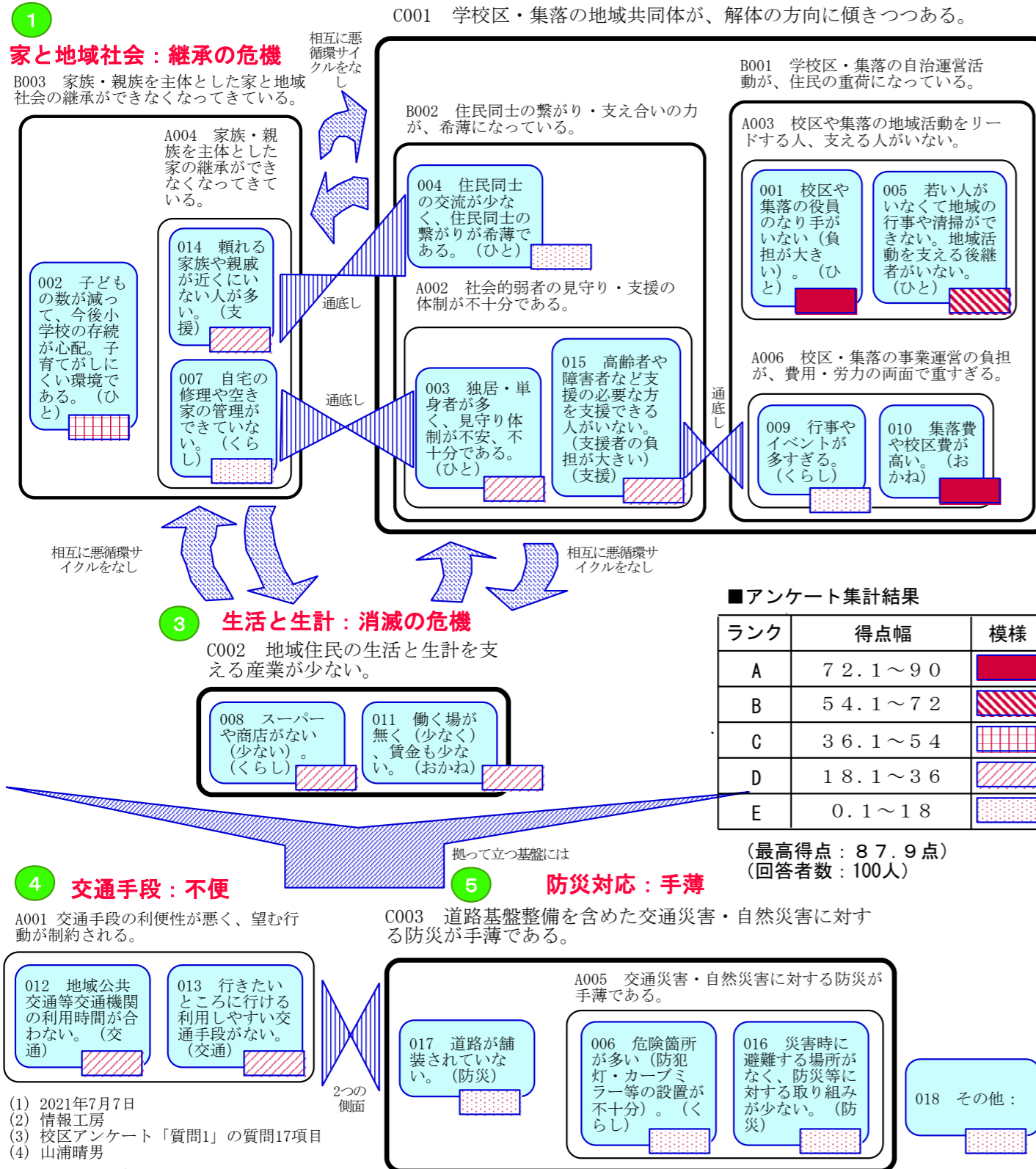
校区で生活するなかで、どのお困りごとがありますか？
「質問1の項目」から浮かび上がる校区の姿

安城校区「地域づくりアンケート」回答結果

(2021年6月アンケート)

安城校区：全体集計

【分析結果】



■アンケート集計結果

ランク	得点幅	模様
A	72.1～90	■
B	54.1～72	▨
C	36.1～54	▧
D	18.1～36	▩
E	0.1～18	▪

(最高得点：87.9点)
(回答者数：100人)

- (1) 2021年7月7日
- (2) 情報工房
- (3) 校区アンケート「質問1」の質問17項目
- (4) 山浦晴男

注1) 文頭の数字は、質問項目の番号を示す。
注2) 文頭のアルファベットは、階層構造の段階を示す。
注3) 左上の丸数字は、分析結果の解説のストーリーの流れを示す。

「質問1の項目」(校区での生活の困りごと)から浮かび上がった校区の姿は、次のようである。「家と地域社会」「地域共同体」「生活と生計」の3つの要素が、相互に悪循環サイクルをなしている。第1の「家と地域社会」は、「継承の危機」にある。家族・親族を主体とした家と地域社会の継承ができなくなっている。第2の「地域共同体」は、「解体の危機」にある。学校・集落の地域共同体が、解体の方向に傾きつつある。第3の「生活と生計」は、「消滅の危機」にある。地域住民の生活と生計を支える産業が少ない。これらがよって立つ基盤には、2つの側面がある。一方は「交通手段」で、「不便」である。交通手段の利便性が悪く、望む行動が制約される。もう一方は「防災対応」で、「手薄」となっている。道路基盤整備を含めた交通災害・自然災害に対する防災が手薄である。以上のように、現在の困りごとをそのまま放置すると近い将来、校区の地域社会の存続が危ぶまれる状況におかれていることが、浮かび上がった。